長崎県感染症発生動向調査速報

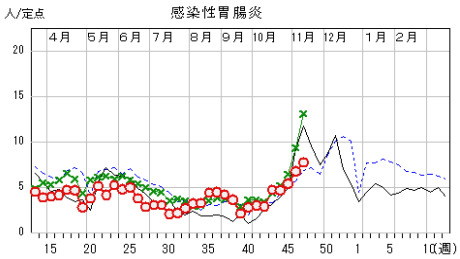
平成28年第46週　　平成28年11月14日（月）～平成28年11月20日（日）

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

（１）　感染性胃腸炎

第46週の報告数は341人で、前週より44人多く、 定点当たりの報告数は7.75であった。

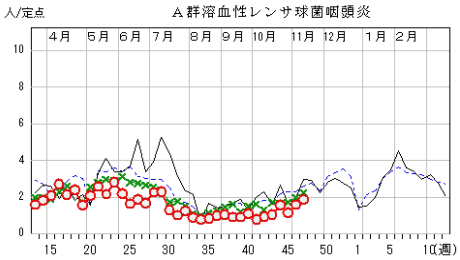
年齢別では、１歳（44人）、６歳（41人）、３歳（40人）の順に多かった。
定点当たりの報告数が多い3保健所は、県北保健所（29.00）、西彼保健所（15.75）、県央保健所（9.50）であった。



（２）　A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第46週の報告数は82人で、前週より12人多く、 定点当たりの報告数は1.86であった。

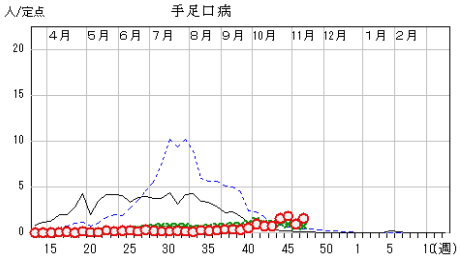
年齢別では、７歳（16人）、６歳（9人）、２歳（8人）の順に多かった。
定点当たりの報告数が多い3保健所は、県央保健所（6.00）、県北保健所（4.00）、五島保健所（1.75）であった。



（３）　手足口病

第46週の報告数は68人で、前週より28人多く、 定点当たりの報告数は1.55であった。

年齢別では、１歳（26人）、２歳（16人）、1歳未満（7人）の順に多かった。
定点当たりの報告数が多い3保健所は、五島保健所（3.50）、佐世保市保健所（3.17）、県南保健所（1.80）であった。



☆上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】
第46週の報告数は、前週より44人増えて341人で、定点当たりの報告数は7.75でした。壱岐地区と対馬地区以外の地区から報告があがっており、県北地区（29.00）、西彼地区（15.75）及び県央地区（9.50）の定点当たり報告数は、他の地区より多い状況です。特に県北地区の定点当たり報告数は警報レベルの開始基準値「20」を超えていますので今後の動向に注意が必要です。
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くを乳幼児が占めています。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早目に医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】
第46週の報告数は、前週より12人増加して82人となり、定点当たりの報告数は1.86でした。壱岐地区と対馬地区以外から報告があがってます。県央地区（6.00）、県北地区(4.00)及び五島地区(1.75)の定点当たり報告数は他の地区より多い状況です。
本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早期に医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【手足口病】
第46週の報告数は、前週より28人増えて68人で、定点当たりの報告数は1.55でした。壱岐地区と対馬地区以外から報告があがっており、五島地区（3.50）、佐世保地区（3.17）及び県南地区（1.80）の定点当たり報告数は、他の地区より多い状況です。
手足口病は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染が主体で、飛沫感染や水疱内容液からも感染します。急性期に最もウイルスの排泄量が多く、回復後も2週間から4週間程度は、便中にウイルスが排泄されるため感染源となりえますので、保護者は乳幼児に手洗い、うがいを励行させて、感染防止に努め体調管理に気をつけてあげましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、保護者は早目に医療機関を受診させてあげるよう心掛けましょう。

☆トピックス：12月1日は「世界エイズデー」です

世界エイズデーは、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。後天性免疫不全症候群（AIDS、エイズ）は、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染することによって引き起こされる病気で、適切な治療が施されないと重篤な全身性免疫不全により日和見感染症や悪性腫瘍を引き起こす重篤な疾患です。
主な感染経路には、性的接触、母子感染（経胎盤、経産道、経母乳感染）、血液による感染があります。近年、治療薬の開発が飛躍的に進み、早期の治療を受ければ感染者の予後は良くなってきています。しかし症状はほとんどないことが多いため、早期発見できるよう、感染の心配があった場合は検査を受けるようにしましょう。エイズの相談・検査は県内の保健所で実施しており、無料・匿名で受けることができます。相談は随時受け付けていますが、検査は電話での事前予約が必要です。検査を希望される際は、事前に各保健所へお問い合わせください。また、HIVに感染しても感染初期には血液中に抗体やウイルスが検出されない期間があるため、感染の可能性のある機会から3ヶ月以上たってから検査を受けましょう。

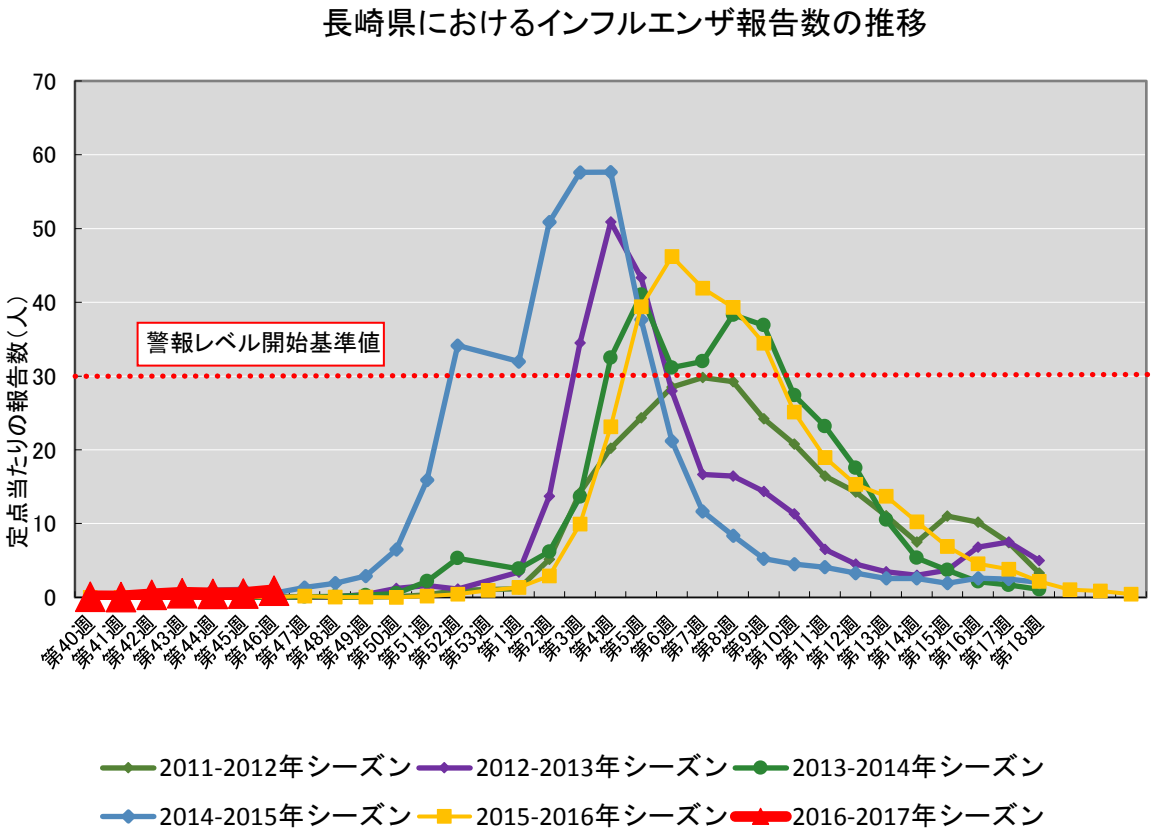
(参考)厚生労働省　12月1日は「世界エイズデー」
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eizu/

☆トピックス：インフルエンザを予防しましょう！

インフルエンザの全国的な流行は、例年11月下旬から12月上旬頃に始まり、年が明けて1月から3月頃にピークを迎えます。本県では、1月から本格的な流行が始まり、以後患者数が急増して2月初旬から中旬にかけてピークに達する傾向にあります。しかし関東地区など他県ではすでに、流行開始の目安としている定点当たり報告数「1.00」を超えたところがあります。長崎県の46週の定点当たり報告数は「0.90」で「1.00」にはまだ達していないものの、早めの対策が重要です。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。他の原因によるかぜ症候群より重症化しやすい傾向がありますので注意を要します。感染経路は、咳やくしゃみの飛沫による飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによって成立する接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的なインフルエンザの症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

飛沫や接触により感染が成立するため、外出先から帰宅した際の手洗いの励行やマスクなどによる「咳エチケット」の徹底など、積極的な感染予防を心掛けましょう。また、インフルエンザワクチンは、接種すればインフルエンザに絶対にかからないというものではありませんが、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した（13歳未満の場合は2回接種した）2週後から5か月程度までと考えられていますので、流行が始まると考えられる11月下旬に間に合うよう、早めにワクチンを接種しておくことが望ましいです。



◆全数届出の感染症

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核　患者3名　男性（80代・3名）
無症状病原体保有者1名　女性(60代・1名)

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症　患者1名　女性(4歳・1名)
無症状病原体保有者1名　女性（50代・1名）

4類感染症：つつが虫病　患者1名　女性(70代・1名)
日本紅斑熱　患者1名　女性(60代・1名)

5類感染症(全数把握対象)：報告なし

◆定点把握の対象となる5類感染症

（1）　疾病別・週別発生状況　　（第41～46週、10/10～11/20）

疾　患　名	定点当たり患者数					
	41週	42週	43週	44週	45週	46週
	10/10～	10/17～	10/24～	10/31～	11/7～	11/14～
インフルエンザ	0.06	0.33	0.56	0.47	0.54	0.90
ＲＳウイルス感染症	1.07	0.75	1.23	0.73	0.68	0.55
咽頭結膜熱	0.25	0.39	0.16	0.20	0.18	0.34
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	0.95	1.05	1.57	1.16	1.59	1.86
感染性胃腸炎	2.93	4.73	4.66	5.39	6.75	7.75
水痘	0.23	0.07	0.25	0.05	0.39	0.27
手足口病	0.73	0.73	1.57	1.82	0.91	1.55
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.09	0.02	0.09	0.02	0.02	
突発性発しん	0.41	0.55	0.48	0.27	0.25	0.34
百日咳						
ヘルパンギーナ	0.48	0.61	0.68	0.70	0.68	0.32
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	1.20	2.39	1.39	1.23	1.93	0.89
急性出血性結膜炎						
流行性角結膜炎	2.38	2.50	1.88	1.50	1.38	1.00
細菌性髄膜炎			0.08			
無菌性髄膜炎		0.17				0.08
マイコプラズマ肺炎	0.50	1.08	1.08	1.00	0.58	0.58
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

（2）　疾病別・保健所管内別発生状況　　（第46週、11/14～11/20）

疾　患　名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.90	0.55	0.24	0.33	0.17	1.30	3.13	0.25	0.80		2.67
ＲＳウイルス感染症	0.55	0.33	1.10		0.25	0.67	0.80	0.33	0.25		
咽頭結膜熱	0.34	0.17	0.30	2.00	0.75	0.50		0.33			
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.86	1.50	0.40		1.50	6.00	1.40	4.00	1.75	0.50	
感染性胃腸炎	7.75	7.50	5.60		15.75	9.50	1.80	29.00	3.75	4.50	
水痘	0.27		0.50			0.17		0.33	0.50	1.00	0.50
手足口病	1.55	3.17	1.30		1.75	0.17	1.80	1.00	3.50	1.00	
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.34	0.17	0.20		0.50	0.67	0.20	1.67			
百日咳											
ヘルパンギーナ	0.32		0.30			0.67	1.20		0.25		
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.89	1.83	0.40	2.50		0.50	0.80		2.75		0.50
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	1.00	6.00	0.67								
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08		0.33								
マイコプラズマ肺炎	0.58		1.67								2.00
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											